

大学院保健学研究科 G S H 保健学研究実践センター



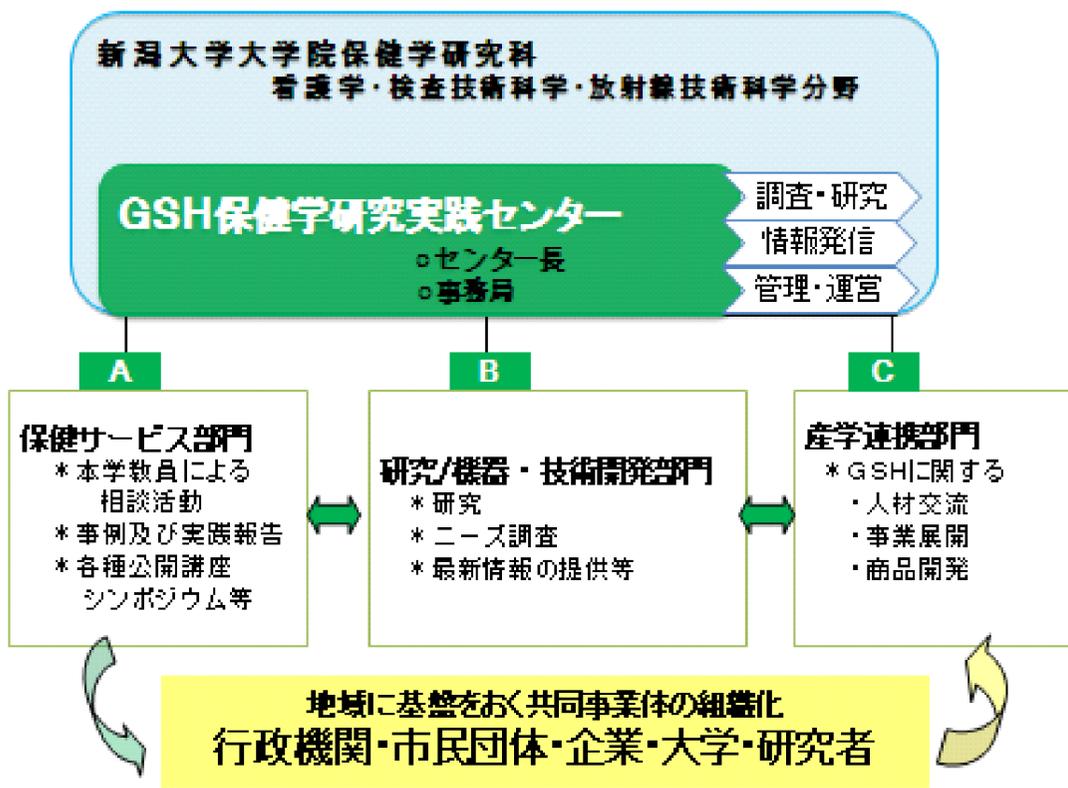
「健康」と「技術革新」に向けて 新潟大学大学院保健学研究科が発信する新たなキーワード — 「性差保健」 <Gender Specific/Sensitive Health>

「性差保健」とは、男女それぞれに特有の病気や症状などについての
医学的、保健学的な根拠に焦点をあてて、さまざまに展開する包括的な保健アプローチです。

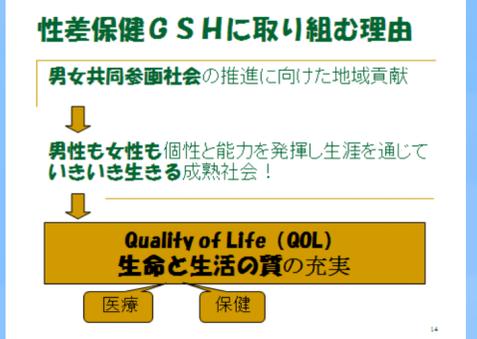
以下の点に配慮しています。

- 男女のからだの構造や機能の差異
 - 仕事、家庭、育児、社会活動など男女のおかれている状況や役割の差異
 - 経済、文化、慣習などとの関係性
- ⇒ **男性・女性にやさしい医療機器・ケア器機開発など、潜在的な可能性を秘めています。**

「性差保健」の研究・実践の拠点 新潟大学大学院保健学研究科GSH保健学研究実践センター



前身は「性差医療(女性医学)」
「女性医学」とは、女性に特有な病態について生物医学的な研究に基づいてエビデンスを得ること、さらにこのエビデンスに基づいて診断、治療を行うこと。
約20年前、アメリカの研究者が21世紀に向けた健康施策を立てようとしたとき、女性の健康に関する信頼すべきデータが少ないことに気づきました。
その後調査および研究が進められ、同じ病気でも男女によって発症年齢や主訴が異なる場合があること、同じ薬でも男女で効果が異なることなどがわかってきました。
参照: 特集 女性 編集第3回女性医療フォーラム(働ける医療:2007, WINTER p.4) 研究報告の紹介記事



9月開催公開講座の手応えは・・・ (参加者アンケートから)

「性差に配慮した健康支援」について必要だと思うか? (n=46)



- 今後取り上げてほしいテーマ
- * 性差と関節痛・腰痛(加齢変化を含む)、筋・骨系の疾患、性差の炎症症状
 - * 男女による感情隆起の違い、脳の違いによる物事の処理、考え方の違いなど
 - * ストレスにおける性差、地域における性差(新潟と東京等)
 - * ライフスタイル、サイクルにおける疾病の問題
 - * ライフサイクルとメンタルヘルス
 - * パニック障害(睡眠との関連で)
 - * 脳卒中の予防
 - * 健康と運動、呼吸

感想(自由記述)

- * 「保健学科は新しい事をいろいろされているのだと思うと今後が楽しみです。新潟発GSH頑張ってください！睡眠のお話、とても面白かったです。夫や親にも聞かせてあげたかったです。わかりやすく興味深かったです。」(40代女性)
- * 「もっと難しい講義かと思っていましたが、とてもわかり易くて、今後も機会があったら参加したい。より広く広報活動をされて、多くの方々が参加したらと感じました」(60代女性)
- * 「ふだんなかなか得にくい知識を得ることができた。質疑応答での内容は特に良かった」(40代女性)
- * 「運動に関係があるかどうかを知りたかった」(50代男性)

本技術の問い合わせ先
新潟大学 地域共同研究センター
TEL:025-262-7554 FAX:025-262-7550
E-mail: kenkyu@ccr.niigata-u.ac.jp